

京都市立洛風中学校視察について

中央教育審議会初等中等教育分科会

1. 目的

これからの初等中等教育の在り方を議論するに当たっては、全国各地の教育現場の状況を適切に把握し、子供や教師をはじめとした学校関係者、保護者等の意見を踏まえることが重要である。令和5年4月に施行されたこども基本法においても、こどもに直接関係する全ての事項に関して、年齢や発達程度に応じてこどもの意見を表明する機会が確保されることが基本理念として規定されており、当事者であるこどもの声を直接聞くことの重要性はこれまで以上に増している。

今般、令和5年3月に文化庁が京都に移転したことを契機として、文化庁京都庁舎において中央教育審議会初等中等教育分科会（以下「初等中等教育分科会」という。）を実施することを受け、上記の趣旨も踏まえ、初等中等教育分科会に先立ち、学校現場を視察することとした。

視察先については、「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」において、不登校児童生徒数やいじめ認知件数、いじめ重大事態の件数が過去最多となっているなど、児童生徒の指導上の諸課題について、大きな課題となっていることや、同日に開催された初等中等教育分科会においても、「不登校・いじめの状況と文部科学省における対応」や「義務教育の在り方ワーキンググループの中間まとめ」についての議論を予定していたこと等も踏まえ、学びの多様化学校である京都市立洛風中学校を選定した。

2. 概要

○ 日 時：令和6年1月16日（火）10時00分～11時45分

○ 視察先：京都市立洛風中学校

（京都市中京区姉小路通東洞院東入曇華院前町706-3）

○ 参加者：初等中等教育分科会委員14名（荒瀬分科会長、堀田分科会長代理、石崎委員、岩本委員、岡本委員、柿沼委員、齊藤委員、白井委員、神野委員、田島委員、中谷委員、藤田委員、森田委員、渡辺委員）

○ 行 程：

時刻	進行
10:00～10:15	<u>挨拶・学校概要説明</u> ・ 京都市の不登校に係る施策概要説明 ・ 洛風中学校 概要説明
10:20～10:40	<u>授業見学・施設見学</u>
10:50～11:30	<u>委員と生徒、教師、保護者の意見交換</u>
11:40～11:45	<u>総括</u>

3. 具体的な視察内容

①京都市立洛風中学校について

- 京都市立洛風中学校は、京都市中京区にある学びの多様化学校であり、平成16年の開校以降約20年間に渡り、不登校経験のある子供たちに学びの場を提供している。視察時点で、教職員24名、生徒47名（1年生7名、2年生18名、3年生22名）が所属している。
- 教育課程の特色としては、社会と理科の合科である「科学」の授業や、音楽・美術・技術・家庭科の合科である「創造工房」の授業のほか、多様な体験活動や人との交流を通して自己有用感や自己肯定感を育むことを目的とする「ヒューマンタイム」等が挙げられる。
- 洛風中学校の敷地内には、京都市教育相談総合センター（通称「こどもパトナ」）が併設されており、同センターとの連携により、カウンセリングの実施等を含めた幅広い支援を行っている。



稲田教育長の挨拶の様子

②授業見学について

- 委員が3～4名ずつの4班に分かれ、班ごとに中学校1年生、3年生の生徒の授業（数学、英語、創造工房）の見学を行った。
- また、授業見学の移動の際に、洛風中学校関係者より、校内施設や生徒の作品等の紹介があった。



施設見学の様子

③意見交換について

- 委員が3～4名ずつの4班に分かれ、班ごとに生徒や教師、保護者との意見交換を合計40分程度行った。円滑な意見交換のため、生徒のいるグループには補助として教師が各1名ずつ参加した。なお、生徒には、あらかじめ、委員のプロフィール等を掲載した資料を配付し、話したい



意見交換の様子

委員のいるグループにおいて意見交換に参加できる形式とした。

- 生徒との意見交換においては、委員から生徒に対して「洛風中学校の好きなのところはどんなところか」「どのような学校があったらいいなと思うか」などの問いかけを行った。生徒からは「前の学校と異なり、洛風中学校では先生が子供の声をちゃんと聞いてくれる」「いろいろな学校の中から選択できると一番いいのではないか」などの意見が出た。

3. まとめ

- 今回の視察は、初等中等教育分科会として学校現場に出向く貴重な機会となり、授業見学や生徒や教師、保護者等から直接意見を聞くことを通じて、学校現場の実情を把握し、これからの初等中等教育の在り方について議論を進めるに当たって重要な示唆を得ることができた。今後も当事者の声を聴きながら議論を深めていく必要がある。